令和4年度 第3回 沖縄観光2次交通の利便性向上に向けた検討委員会

観光系路線バスを対象とした コンタクトレス決済導入に係わる実証

令和5年3月20日

1. 今年度の取組内容

- ◆昨年度の取組結果を踏まえ今年度の実証は、沖縄バス(空港リムジンバス)、カリー観光、東京バスの3事業者を対象に、端末台数を拡充し、実証を継続。本年度事業として令和5年3月15日まで実施。
 - ⇒沖縄バスは昨年度は窓口での設置だったが今年度は空港リムジンバス車内にて設置。
- ◆対象となる3事業者については課題把握、効果検証を行い、次年度以降の検討を行った。

▼今年度の実証予定事業者、対象路線、決済手段、端末台数

会社名	対象路線	決済手段	決済端末
沖縄バス(リムジンバス)	・空港リムジンバス(全路線)	・Visa のタッチ決済	14台
カリー観光	・北谷ライナー・パルコシティシャトルバス・瀬長島ライナー・美ら海ライナー	・Visa のタッチ決済 ・QR コード決済	6台
東京バス	・琉球ホテルエアポートリムジン・ハーレーエクスプレス・ウミカジライナー	・Visa のタッチ決済 ・QR コード決済	14台
	合 計		34台

- ❖以下については、外部要因も含まれたが適宜、検討を進めた。
 - ①**効果検証:**利用実績の把握、利用者アンケート等を実施。
 - ②課題の洗い出しと改善:各バス会社から上がっている課題(決済の反応速度向上等)について、端末メーカー(小田原機器)と協議をしつつ適時対応・改善を検討した。
 - ③インバウンド対応:インバウンドについては、動向を踏まえつつ、対応準備を行った(決済端末自体は多言語対応済みであるが、端末の操作方法についての多言語補足資料の検討や周知・案内資料の作成等)。
 - ④決済ブランドの多様化:クレジットカードの決済手段について、JCBのタッチ決済にも対応できるよう調整を実施。
 - **⑤自走化に向けた調整:**実証後の自走化について、ランニングコスト、メンテナンス体制等、端末メーカー、バス会社と協議・調整の実施。

2. 今年度の取組結果

(1) 周知広報

◆本取組の周知のため、車内・バス停による告知、リーフレットの配布、空港におけるデジタルサイネージの告知を実施。



昨年度作成した告知ツール



告知リーフレット



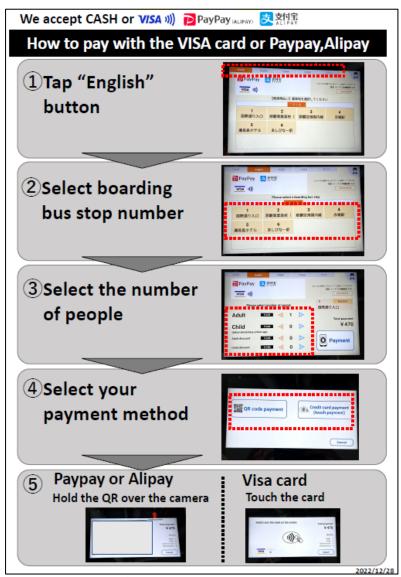


那覇空港におけるサイネージでの告知

2. 今年度の取組結果

(2) インバウンド対応

◆外国人利用者の受け入れに向けて、インバウンド向けの指差し会話帳やタッチ決済の案内ツールを作成。



インバウンド向けの指差し会話ツール



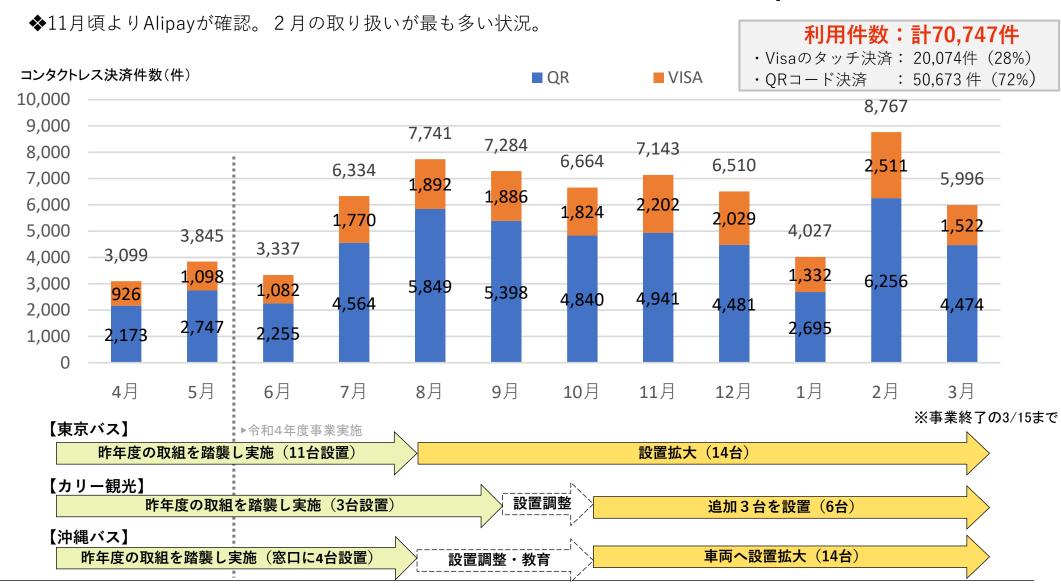
英語翻訳したタッチ決済の案内



「5秒お待ちください」のポップ

3. 本事業によるコンタクトレス決済件数

- ◆今年度の実証は6月より開始。(昨年度の実証終了後から今年度の実証開始までは民間ベースの取組として継続)
- ◆東京バス、カリー観光については台数を拡充、沖縄バスは窓口設置から車両への設置に変更のうえ実施を継続。
- ◆4月1日から3月15日までの利用件数は70,747件(うち28%がVisaのタッチ決済、72%がQRコード決済)



4. アンケート調査結果(再掲)

(4)対象路線の利用者アンケート調査結果

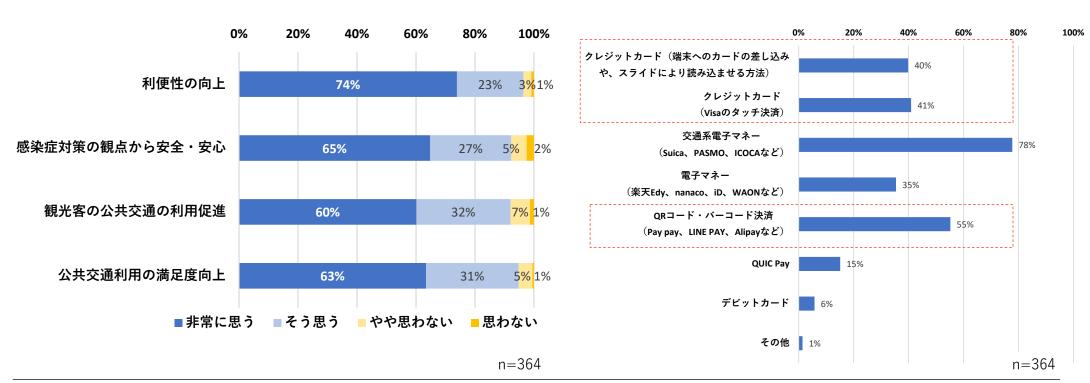
- ❖対象事業者(3社)の利用者を対象として実施しているアンケート調査の結果を以下に示す。
- ◆アンケート調査は対象である3事業者の令和4年4月1日~8月31日の364件を対象としている。

コンタクトレス決済の普及による有効性について、昨年度同様、4つの観点において「非常にそう思う」または「そう思う」の回答がどれも80%以上となっており、バス利用者もコンタクトレス決済に関心があり有効であることがわかる。

県内の公共交通の導入を進めて欲しい決済方法について、「交通系電子マネー」が78%と最も多く、次いで「QRコード・バーコード決済(55%)」、「クレジットカードによる決済(41%)」となっている。

【コンタクトレス決済の普及による有効性】

【県内の公共交通の導入を進めて欲しい決済方法】



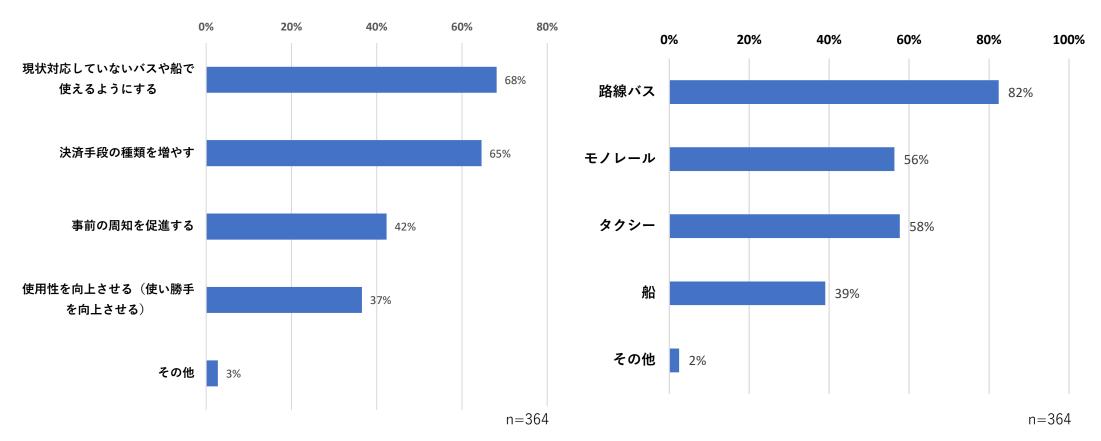
4. アンケート調査結果(再掲)

コンタクトレス決済の取組を進めるうえで重要なことについて、「現状対応していないバスや船で使えるようにする」が最も多く68%、ついで「決済手段の種類を増やす」が65%と多い。

コンタクトレス決済を導入して欲しい交通機関について、「路線バス」が82%と最も多く、次いで「タクシー」が58%と多い。(過年度と同様の傾向)

【コンタクトレス決済の取組を進めるうえで重要なこと】

【コンタクトレス決済を導入して欲しい交通機関】



5. 実証を通じて確認した課題と対応方針

- ◆各社にて利用いただいている一方で、本実証に関する課題等をいただいている。
- ◆以下に各バス会社の運行管理者や乗務員の皆様より頂いたご意見とその要因および対応方針を示す。

▼各バス会社よりいただいたご意見と対応方針の抜粋(1/2)

種別	no	各バス会社より頂いたご意見	要因・対応方針
インバウンド対応	1	・端末の操作については英語対応しているが、バス停の名称もあわせて英語対応 いただきたい。	・バス事業者の皆様とも協議の上、 GTFSデータにてバス停の英語の データも追加することで対応を検 討。
データ更新	2	・データ更新の手順が複雑。	・現在、データ更新についてはシス テム開発を進めている状況。
VISAタッチ決 済	3	・VISA以外のJCB、マスターカードの利用 客がいるがお断りしている。導入につい て検討いただきたい。	・JCBとは導入に向けて協議を進めている状況。マスターカードは見込みが立っていない状況。・VISA以外は使えないようわかりやすいツールを作成しているが効果について確認する。
	4	・VISAのタッチ決済はタッチしてから早くても5〜6秒かかってしまう。 ・より時間がかかっている場合もある。	・決済速度については令和4年11月 に1~2秒程度短縮するなど改善を 進めてきた。今後も関係者含めて 改善を図りたい。 ・また、無線通信のため通信環境に 左右される場合もあるため引き続 き要因含め注視したい。

5. 実証を通じて確認した課題と対応方針

▼各バス会社よりいただいたご意見と対応方針の抜粋 (2/2)

種別	no	各バス会社より頂いたご意見	要因・対応方針
QR決済	5	・日差しが強いとスマホの画面が反射し て読み取れないときがある。	・現場の皆様とも協議しながら、庇 の設置等の対応策について検討し たい。
	6	・QRを読み込む際にカメラの位置を間違 えており読み取りできていない場合があ る。	・画面構成やカメラへの誘導マーク 等による指示にて改善を図る。
バッテリーなど	7	・バッテリーの持ち時間が短い個体がある。・1日もたないため常時充電している。	・バッテリーの劣化については個体 差があると想定されるため把握の うえメーカーと協議のうえ対応。
	8	・20~30回に1回、画面が落ちる個体が ある。	・個体や発生状況を確認のうえ対応 したいと考えており、今後、現場 とも密に連絡をとり対応したい。
通信環境	9	・那覇空港や一部ホテル(庇のあるエリア)では決済画面への切り替わりが遅い。	・決済画面への切り替わりの遅延に ついては通信環境が要因と想定さ れるため、那覇空港については関 係者と協議のうえ改善を図る。

6. 次年度以降について

- ◆昨年度(令和3年度2月1日)から今年度(令和5年3月15日)まで本事業にてコンタクトレス決済の取組を進めてきたが、本取組の主要ターゲットである中国本土を中心としたインバウンドの需要回復に時間を要することが想定されるため、令和5年度では県事業としての本取組は休止。
- ◆上記のため、県事業としては令和5年度は休止となるため、民間ベースによる実施へと移行。
- ◆沖縄バス(リムジンバス)およびカリー観光については当面、民間ベースにて継続実証し、令和5年5月に以降の継続の判断を行う予定。
- ◆東京バスについては2月より乗客増加によるドライバーのオペレーション負担が増加しており、負担軽減のため本実証終了(令和5年3月15日)に伴い休止。(コンタクトレス決済のUI改善等次第では再開も視野に入れている状況)

▼各事業者の今後の方針

会社名	対象路線	決済手段	令和4年度 決済端末数	令和5年度以降
沖縄バス (リムジンバス)	・空港リムジンバス (全路線)	・Visa のタッチ決済	14台	・令和5年5月まで
カリー観光	・北谷ライナー・パルコシティシャトルバス・瀬長島ライナー・美ら海ライナー	・Visa のタッチ決済 ・QR コード決済	6台	民間ベースにて実 施を行い、その後 継続の判断
東京バス	・琉球ホテルエアポートリムジン・ハーレーエクスプレス・ウミカジライナー	・Visa のタッチ決済 ・QR コード決済	14台	・本事業終了に伴い休止